

ら
ヤコブ

聖徒たちと歩む聖書 ~22~
ヤコブ その5

「人生の谷間を越えて」

創世記34~36章 ディナ事件、再びベテルへ

【今日のアウトライン】

0. ふりかえり

I. シェケムでの事件

II. ベテルでの再出発

III. ラケルの死 イサクの死

IV. まとめと適用

人生の谷間を越えて
信仰が停滞するとき



0. ふりかえり



神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、
アブラハムから、イサク、
そして、ヤコブへと継承されていく。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱



【三つの主な条項】

①子孫の約束

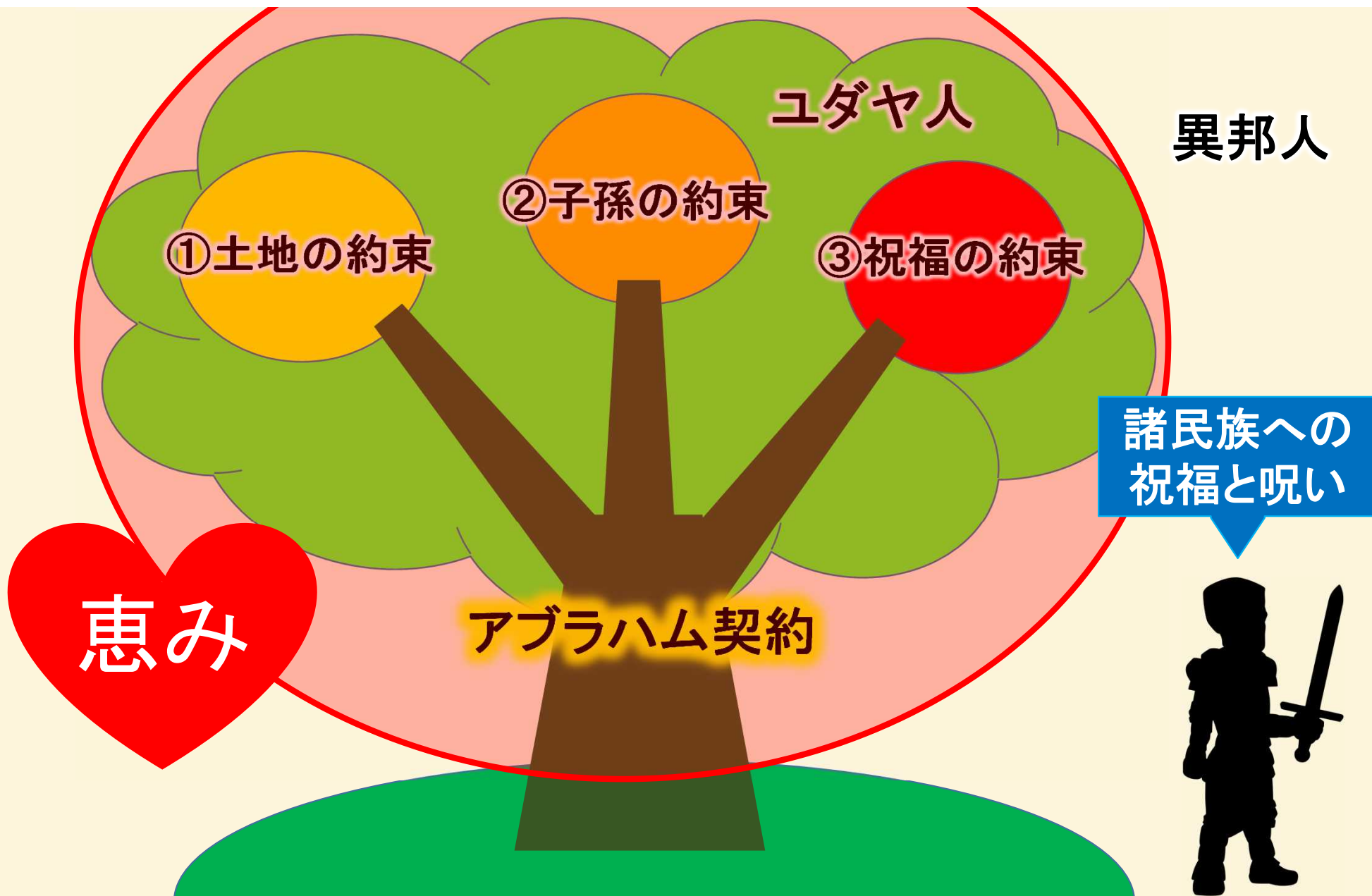
②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

【アブラハム契約】

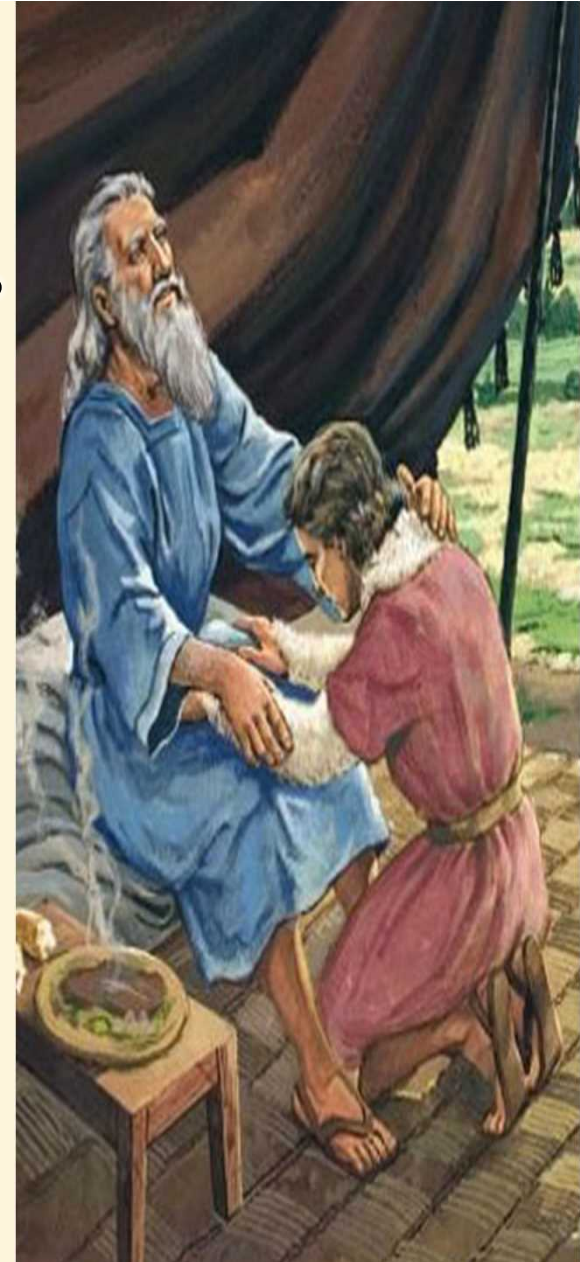


【トルドット・時代区分】

①2:4~4:26	「これは天と地が創造された時の <u>経緯</u> である」
②5:1~6:8	「これはアダムの <u>歴史</u> の記録である」
③6:9~	「これはノアの <u>歴史</u> である」
④10:1~	「これはノアの息子、セム、ハム、ヤペテの <u>歴史</u> である」
⑤11:10~	「これはセムの <u>歴史</u> である」
⑥11:27~	「これはテラの <u>歴史</u> である」 アブラハム編
⑦25:12~18	「これはイシュマエルの <u>歴史</u> である」
⑧25:19~35:29	「これはイサクの <u>歴史</u> である」 ヤコブ編

【三代目ヤコブの誕生・旅立ち・契約の継承】

- 父イサク60歳の時に誕生。双子の兄エサウの“かかとをつかんでいた”ことが、ヤコブの名前の由来。
- 神は、“兄が弟に仕える”と、予告されていた。
- 父イサクを欺し、兄エサウの怒りを招き、旅だったヤコブに主は、アブラハム契約を継承された。
- ハランで、二人の妻を娶ったヤコブは、強欲な叔父ラバンとの葛藤の末に、20年ぶりに故郷を目指す。



【ヤコブの神との格闘】

■ エサウとの再会を前に、神と格闘したヤコブ。

■ ヤコブは、あきらめず、神と格闘し続け、その信仰を認められた。

■ “神と戦った“ ヤコブは、
”神が共に戦ってくださる”

イスラエルへと変えられた。

■ 神が認められる、勝利をもたらす条件とは、
試練の中で、ただ神を信賴し、
ひたすら、神に求め続けること。



【ヤコブへの神の約束】 創28:13～15

- そして仰せられた。「わたしはあなたの父アブラハムの神、イサクの神、【主】である。
- わたしはあなたが横たわっているこの地を、あなたとあなたの子孫とに与える。
- あなたの子孫は地のちりのように多くなり、あなたは、西、東、北、南へと広がり、
- 地上のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福される。
- 見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」

神の御名の宣言

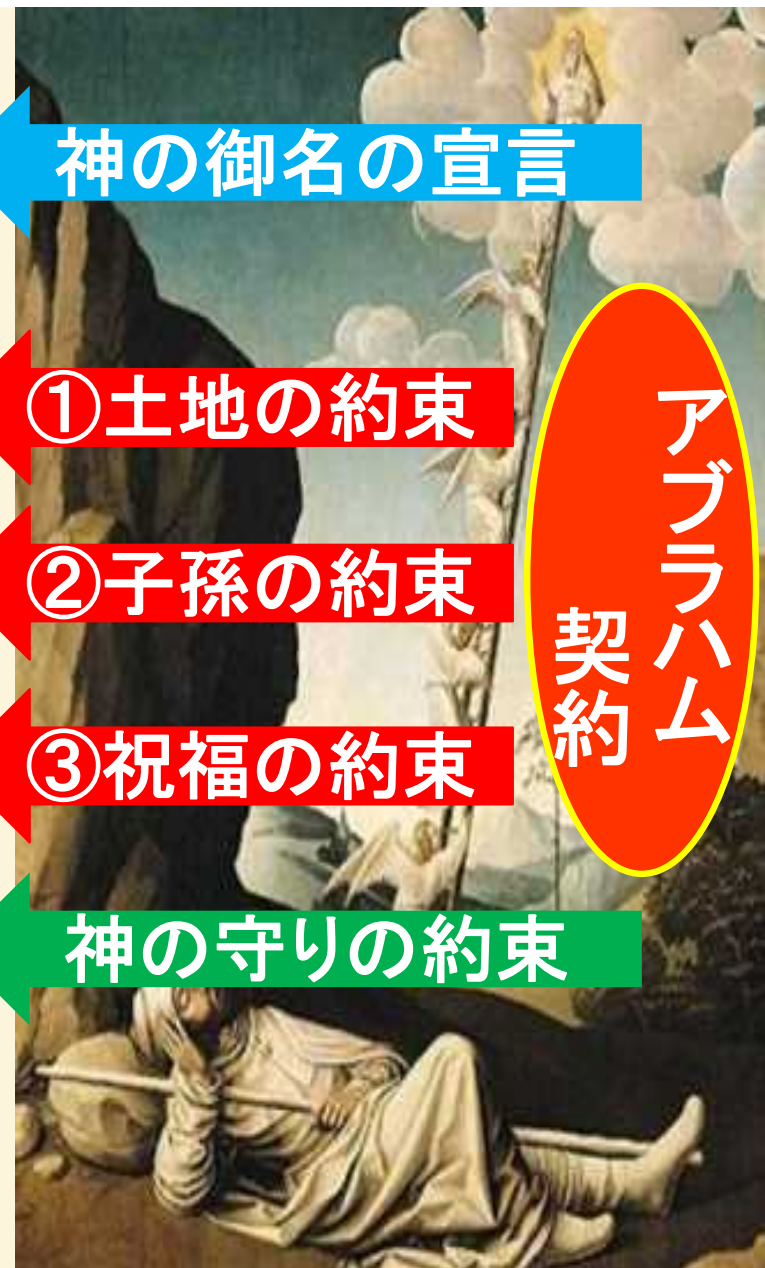
①土地の約束

②子孫の約束

③祝福の約束

神の守りの約束

アブラハム
契約





▲
ハラシ

I. シェケムでの事件

創34:1~31

▲ベテル

▲ベエル・シェバ

セイルの山地



ハラシ

シェケム▲

▲ベテル

ヤボクの渡し

▲ベエル・シェバ

セイルの山地

荒野で一人身を横たえるヤコブに、主が現れ、必ずこの地へ連れ戻すと約束された。

ヤコブが、帰還したなら、必ず再訪し、主に献身の礼拝をささげると誓ったベテル。

しかし、ベテルを目前にして、ヤコブは、歩みを止めてしまう。

信仰のエアポケットに落ちこんでしまったヤコブを、悲劇が襲う。

【辱められたディナ】 創34:1～4

レアがヤコブに産んだ娘ディナがその土地の娘たちを訪ねようとして*出かけた。

34:2 すると、その土地の族長のヒビ人ハモルの子シェケム*は彼女を見て、これを捕らえ、これと寝てはずかしめた。*

* ディナは、シェケムに遊びに出かけた。
ごく軽い動機だったのだろうが...

* シェケム ...町の名を冠した、族長の息子。
この地の支配者。

* 淡々と記された事実が示す、彼の邪悪さ。
欲しい⇒捕らえる⇒レイプする

■ 欲望のまま。効かない良心というブレーキ!!



【辱められたディナ】 創 34:3～4

彼はヤコブの娘ディナに心をひかれ、この娘を愛し*、ねんごろにこの娘に語った。

シェケムは父のハモルに願って言った。
「この女の人を私の妻にもらってください。*」

- * 他者の尊厳を顧みない歪んだ愛。
- * すべてに自分の欲望が優先している。
シェケムの傲慢さ。強欲さ。



【ヤコブの沈黙】 創 34:5～7

ヤコブも、彼が自分の娘ディナを汚したことを聞いた。息子たちはそのとき、家畜といっしょに野にいた。ヤコブは彼らが帰って来るまで黙っていた。*シェケムの父ハモルは、ヤコブと話し合うために出て来た。ヤコブの息子たちが、野から帰って来て、これを聞いた。人々は心を痛め、ひどく怒った。シェケムがヤコブの娘と寝て、イスラエルの中で恥ずべきことを行ったからである。このようなことは許せないことである。

* 対応が後手にまわったヤコブ。

■ 家族の中に怒りが燃え広がっている状況にも、ヤコブは、何も対処しなかった。

ヤコブの無策が
さらなる悲劇を招く!!



【ハモルの提案】 創34:8～10

ハモルは彼らに話して言った。「私の息子シェケムは心からあなたがたの娘を恋い慕っております。どうか彼女を息子の嫁にしてください。私たちは互いに縁を結びましょう。あなたがたの娘を私たちのところにとつがせ、私たちの娘をあなたがたがめとってください。

そうすれば、あなたがたは私たちとともに住み、この土地はあなたがたの前に開放されているのです。ここに住み、自由に行き来し、ここに土地を得てください。」

- まるで何事もなかったかのように。ハモルの取引。謝罪の言葉はかけらもない。➡ハモルの邪悪さ。

定住権を餌に、
取引するハモル



【シェケムの申し出】 創 34:11～12

シェケムも彼女の父や兄弟たちに言った。「私はあなたがたのご好意にあずかりたいのです。あなたがたが私におっしゃる物を何でも差し上げます。

34:12 どんなに高い花嫁料と贈り物を私に求められても、あなたがたがおっしゃるとおりに差し上げますから、どうか、あの人を私の妻に下さい。」

- シェケムも、謝罪の言葉は皆無。
- ハモルとシェケムの提案は、取引でしかない。
 - ⇒ 犯罪行為をもみ消す。
 - ⇒ 体裁よく、美しい妻を得る。
 - ⇒ ヤコブ一族との友好関係を築き、利益を得る。



【シメオンとレビの提案】 創34:13～17

ヤコブの息子たちは、シェケムとその父ハモルに答えるとき、シェケムが自分たちの妹ディナを汚したので、悪巧みをたくらんで、彼らに言った。

「割礼を受けていない者に、私たちの妹をやるような、そのようなことは、私たちにはできません。それは、私たちにとっては非難の的です。ただ次の条件であなagaたに同意しましょう。それは、あなagaたの男子がみな、割礼を受けて、私たちと同じようになることです。そうすれば、私たちの娘たちをあなagaたに与え、あなagaたの娘たちを私たちがめとります。そうして私たちはあなagaたとともに住み、私たちは一つの民となりましょう。もし、私たちの言うことを聞かず、割礼を受けないならば、私たちは娘を連れて、ここを去ります。」



【ハモルとシェケムの呼びかけ】創34:18

彼らの言ったことは、ハモルとハモルの子シェケムの心になかった。この若者は、ためらわずにこのことを実行した。彼はヤコブの娘を愛しており、また父の家のだれよりも彼は敬われていたからである。ハモルとその子シェケムは、自分たちの町の門に行き、町の人々に告げて言った。

「あの人たちは私たちと友だちである。だから、あの人たちをこの地に住ませ、この地を自由に行き来させよう。この地は彼らが来ても十分広いから。私たちは彼らの娘たちをめとり、私たちの娘たちを彼らにとつがせよう。

ただ次の条件で、あの人たちは私たちとともに住み、一つの民となることに同意した。それは彼らが割礼を受けているように、私たちのすべての男子が割礼を受けることである。

そうすれば、彼らの群れや財産、それにすべての彼らの家畜も、私たちのものになるではないか。さあ、彼らに同意しよう。そうすれば彼らは私たちとともに住まおう。」



【シェケムの虐殺】創34:24～27

その町の門に出入りする者はみな、ハモルとその子シェケムの言うことを聞き入れ、その町の門に出入りする者のすべての男子は割礼を受けた。

三日目になって、ちょうど彼らの傷が痛んでいるとき、ヤコブのふたりの息子、ディナの兄シメオンとレビとが、それぞれ剣を取って、難なくその町を襲い、すべての男子を殺した。

こうして彼らは、ハモルとその子シェケムとを剣の刃で殺し、シェケムの家からディナを連れ出して行った。ヤコブの子らは、刺し殺された者を襲い、その町を略奪した。それは自分たちの妹が汚されたからである。



【虐殺と略奪の後に】創34:28～30

彼らは、その人たちの羊や、牛や、ろば、それに町にあるもの、野にあるものを奪い、その人たちの全財産、幼子、妻たち、それに家にあるすべてのものを、とりこにし、略奪した。

それでヤコブはシメオンとレビに言った。「あなたがたは、私に困ったことをしてくれて*、私をこの地の住民カナン人とペリジ人の憎まれ者にしてしまった。私には少人数しかいない。彼らがいっしょに集まって私を攻め、私を打つならば、私も私の家の者も根絶やしにされるであろう。」

彼らは言った。「私たちの妹が遊女のように取り扱われてもいいのですか。」

* ここに来て、保身の言葉しか出ないヤコブ。



Ⅱ. ベテルでの再出発

創世記34:1~15



【ヤコブの信仰復興】 創 35:1

神はヤコブに仰せられた。「立ってベテルに上り、そこに住みなさい。そしてそこに、あなたが兄エサウからののがれていたとき、あなたに現れた神のために祭壇を築きなさい。」

- ヤコブの信仰の危機の中で呼びかけられた主。
⇒前章には、神の名は一度も登場しなかった!!
- 求められたのは、信仰の原点ベテルへの回帰。

「神が私とともにおられ、私が行くこの旅路を守り、食べるパンと着る着物を賜り、無事に父の家に帰らせてくださり、こうして【主】が私の神となられるなら、石の柱として立てたこの石は神の家となり、すべてあなたが私に賜る物の十分の一を必ずささげます。創28:11」



【ヤコブの信仰復興】 創 35:2

それでヤコブは自分の家族と、自分といっしょにいるすべての者とに言った。「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き*、身をきよめ、着物を着替えなさい。そうして私たちは立って、ベテルに上って行こう。私はそこで、私の苦難の日に私に答え、私の歩いた道に、いつも私とともにおられた神に祭壇を築こう。」

*いつの間にか蔓延していた偶像礼拝。
⇒ヤコブ一族の靈的停滞の元凶。

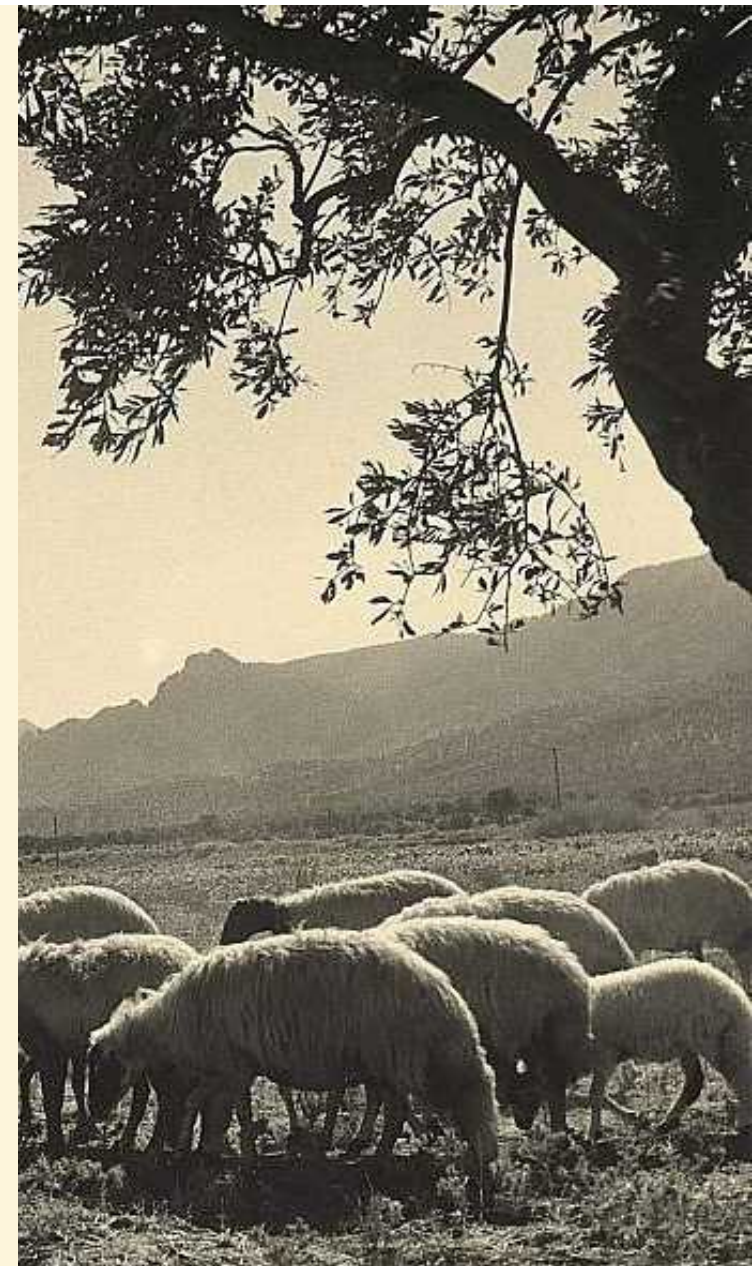


【再出発】 創 35:4

彼らは手にしていたすべての異国の神々と、耳につけていた耳輪*とをヤコブに渡した。それでヤコブはそれらをシェケムの近くにある檜の木の下に隠した。彼らが旅立つと、神からの恐怖が回りの町々に下ったので、彼らはヤコブの子らのあとを追わなかった。

*この耳輪も、偶像に関するものか？

■偶像を捨て、主に立ち返ったヤコブたちを、主が、主の約束通りに守られた。



【回帰の最中の悲劇】 創 35:6～8

ヤコブは、自分とともにいたすべての人々といっしょに、カナンの地にあるルズ、すなわち、ベテルに来た。

ヤコブはそこに祭壇を築き、その場所をエル・ベテルと呼んだ*。それはヤコブが兄からののがれていたとき、神がそこで彼に現れたからである。

リベカのうばデボラは死に、ベテルの下手にある檜の木の下に葬られた*。それでその木の名はアロン・バクテと呼ばれた。

* エル・ベテル ⇒ “ベテル(神の家)の神“

* 帰郷した折には、すでに母リベカは死去。

デボラの死は、さらなる悲しみとなっただろう。



【真実の帰還】 創 35:9～10

こうしてヤコブがパダン・アラムから帰って来たとき*、神は再び彼に現れ、彼を祝福された。神は彼に仰せられた。「あなたの名はヤコブであるが、あなたの名は、もう、ヤコブと呼んではならない。あなたの名はイスラエルでなければならぬ。」*」それで彼は自分の名をイスラエルと呼んだ。



* ここでようやく、ヤコブは帰還したと認められた。

■ 大切なのは、信仰の原点に立ち返ること。

* ヤボクの渡しでの命名が、再度確認される。

■ “神と戦ってきた”、ヤコブという古い性質との決別。

“神が共に戦われる”イスラエルにふさわしい歩みへ。

【全能の神の約束】 創 35:11～12

神はまた彼に仰せられた。「わたしは全能の神*である。生めよ。ふえよ。一つの国民、諸国の民のつどいが、あなたから出て、王たちがあなたの腰から出る。

わたしはアブラハムとイサクに与えた地を、あなたに与え、あなたの後の子孫にもその地を与えよう。」

* エル・シャダイ ...イサク誕生を告げた御名(創17:1)

■ ヤコブに対して再確認されるアブラハム契約

ここでは、①子孫の約束と ②土地の約束 が!!



【ベテルでの礼拝】 創 35:13～15

神は彼に語られたその所で、彼を離れて上られた。
ヤコブは、神が彼に語られたその場所に柱、すなわち、石の柱を立て、その上に注ぎのぶどう酒を注ぎ*、またその上に油をそそいだ。

ヤコブは、神が自分と語られたその所をベテルと名づけた。*

* 20年前には、注いだのは油だけだった。

⇒ぶどうは、この地の産物。

約束の地への帰還の感謝を示すものか。

* その名が、再度、確認された。



Ⅱ. ラケルの死 イサクの死

創世記35:15～29

エルサレムから見たベツレヘム
羊飼いの野

【ラケルの死】 創 35:16～19

彼らがベテルを旅立って、エフラテまで行くにはまだかなりの道のりがあるとき、ラケルは産気づいて、ひどい陣痛で苦しんだ。彼女がひどい陣痛で苦しんでいるとき、助産婦は彼女に、「心配なさるな。今度も男のお子さんです」と告げた。彼女が死に臨み、そのたましいが離れ去ろうとするとき、彼女はその子の名をベン・オニ*と呼んだ。しかし、その子の父はベニヤミン*と名づけた。

こうしてラケルは死んだ。彼女はエフラテ、今日のベツレヘムへの道に葬られた。ヤコブは彼女の墓の上に石の柱を立てた。それはラケルの墓の石の柱として今日に至っている。

* 苦しみの子 ⇒ * わたしの右手の子

■ 「子を産まなければ死んでしまう」と訴えたラケルの最後。



【長兄ルベンの罪】 創 35:21～22

イスラエルは旅を続け、ミグダル・エデルのかなたに天幕を張った。イスラエルがその地に住んでいたころ、ルベンは父のそばめビルハのところに行って、これと寝た*。イスラエルはこのことを聞いた。

* 側女と寝る ⇒ 父の権威の略奪。反逆。

■ ルベンは、長子の権利を自らの手で得ようとした。



【イスラエルの12人の息子】 創35:22～26

さて、ヤコブの子は十二人であった。

レアの子はヤコブの長子ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン。ラケルの子はヨセフとベニヤミン。ラケルの女奴隷ビルハの子はダンとナフタリ。レアの女奴隷ジルパの子はガドとアシェル。これらはパダン・アラムでヤコブに生まれた彼の子たちである。

- ベニヤミンの誕生で、12部族の始祖が揃った。
- 二人の妻の争い、悲喜劇。ハランからの逃避行。シェケムの事件。一族の悔い改め。ラケルの死。様々な事柄を経てのことだった。

ただよう
波乱の気配!?



【イサクの死】 創 35:27～29

ヤコブはキルヤテ・アルバ、すなわちヘブロンのマムレにいた父イサクのところに行った。そこはアブラハムとイサクが一時、滞在した所である。

イサクの一生は百八十年であった。

イサクは息が絶えて死んだ。彼は年老いて長寿を全うして自分の民に加えられた。彼の子エサウとヤコブが彼を葬った。

- イサクの死は、ヨセフがエジプトに売られて後。
- * イサクの子孫・ヤコブのトルドット(時代)は終わる。
⇒ヤコブの息子ヨセフの時代へ。



IV. まとめと適用

人生の谷間を越えて
信仰が停滞するとき



【ヤコブが落ち込んだ、人生の谷間・信仰の停滞】

- 神との格闘、エサウとの再会。

人生の大きな山場を越えた後、谷間に落ち込んだヤコブ。

- 目指すべきベテルの目前で、足を止め、シェケムに居着いてしまう。

- 欲望むき出しの都市文明に魅惑、偶像礼拝に染まっていた一族。

- その最中に、ディナの悲劇と、レビ、シメオンによる惨劇が!!

- 信仰の歩みを止めるとき、簡単に足をすくわれてしまう。

- 世にあって私たち信仰者は、旅人であり、寄留の民だと心に刻もう。

平安の地は、真実の故郷は、来たるべき神の国にしかない!!

【ヤコブに学ぶ、神の約束への信頼】

- 偶像を捨て去り、悔い改めて主に立ち返ったヤコブは、自らの信仰の原点であるベテルで、神に礼拝を捧げた。
- 確認されたのは、神の約束。
 - ★ 神が、約束通りヤコブを守り、帰還へと導かれた。
 - ★ ヤコブに継承されたアブラハム契約が、ヤコブを守り、導く。
- ヤコブは、神の約束に、全信頼を寄せた。
神だけに頼って歩いていく、と決意も新たに、信仰を告白した。

【ヤコブに学ぶ信仰の回復の道程】

- すべての信仰者は、罪人であって。今でもなお罪を犯す。
信仰者の歩みは、自ら蒔いた種の刈り取りでもある。
- レビ、シメオンの暴虐、ルベンの反逆に、ヤコブは何を感じただろう？
- 不条理の意味は、一人一人が、主に求め、主から受け取るべきもの。
惨劇の中で、ヤコブは確かに、主の言葉を受け取った。
- 言語を絶する悪に直面したとき、助けとなるのは自らの悪を探ること。
「同じ罪を、自分自身も抱いていないか？」
その問いかけが、人を、報復の罟、悪の連鎖から救い出す。
- 私のために十字架にかけられた、主イエスの贖いを身に刻もう。
罪と悪から解放され、ゆるされるべきは、私の心、魂なのだから。
主は言われる。「復讐は、私のすること。私が報復する。ロマ12:19」

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

信仰(しんこう)の谷間(たにま)に 落(お)ち込(こ)み、悲劇(ひげき)に飲(の)み込(こ)まれたヤコブを、主(しゅ)が 助(たす)け出(だ)してくださいました。簡単(かんたん)に罪(つみ)に陥(おち)いる わたしたちに、主(しゅ)が、悔(く)い改(あらた)めて 立(た)ち返(かえ)る道(みち)を 与(あた)えてくださっています。ただ主(しゅ)を信頼(しんらい)する信仰(しんこう)に 立(た)たせてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈ります。

アーメン」